

研究テーマ： アルツハイマー型認知症の動物モデルの開発

担当者： 福島大学 共生システム理工学類人間支援システム専攻
筒井 雄二

● 研究の概要と目的

高齢化社会の到来は、すなわち認知症患者の増加をも意味している。

アルツハイマー型認知症については、今日に至っても原因が特定されておらず、その治療や予防は困難な状況にある。我が国でアルツハイマー型認知症の治療に有効とされている専門薬は1剤しかなく、しかもその効果は非常にマイルドである。アルツハイマー型認知症の治療に有効な特効薬の開発が待望されている。

アルツハイマー型認知症の治療薬を開発するためには、動物実験（前臨床試験）において記憶実験を中心とした行動薬理実験を行わなければならない。この行動実験の良し悪しが、治療薬の候補を選定する作業（スクリーニング）を決定づけると言っても過言ではない。

今日、アルツハイマー型認知症治療薬の開発で用いられている行動実験の方法には問題があり、そのため治療薬開発が遅れている可能性を我々は考えている。

そこで、本研究では、アルツハイマー型認知症の治療薬を開発するための行動実験法を検討する。そして、人間の認知症に効果のある化合物を選定するのに有効な試験方法を開発することを研究の目的とする。